令和５年度伊予市総合教育会議 議事日程

１　日　時　令和５年 11 月 20 日（月）午後３時 40 分から

２　会　場　伊予市役所５階　議会委員会室

３　出席委員

伊予市長	武　智　邦　典
教育長	上　岡　　孝
教育長職務代理者	矢　野　ひとみ
教育委員	髙　橋　久美子
教育委員	長　見　美　保
教育委員	上　田　晃　義

４　会議に出席した事務局職員

事務局長	窪　田　春　樹
学校教育課長	谷　仲　寿　夫
学校教育課指導主幹	相　原　　勝
学校教育課指導主事	山　口　定　伸
学校教育課課長補佐	福　岡　富美子
学校教育課課長補佐	田　中　富　美
学校教育課	
学校給食センター所長	武　知　　斉
社会教育課長	小笠原　幸　男
社会教育課課長補佐	堀　内　和　美
社会教育課長補佐	伊予岡　一　幸

５　協議事項

⑴　伊予市学校施設等長寿命化事業の見直しについて

⑵　給食センターの調理配送業務の一括委託について

午後３時40分　開会

〇窪田局長　開会

それでは、最初に、武智市長から御挨拶を申し上げます。

〇武智市長　上田さんと小笠原君が初めての教育会議ということ、後でまたそれぞれ自己紹介すると思うんですけど。

今日は給食センターの調理配送業務の一括委託の件と、中山の学校も含めての学校の長寿命化ということで、ご審議を賜る日になっておるそうでありますけれども。昨日も中山の芸能発表会でもしゃべりましたけど、3 万人という言葉が勝手に今は動いてますけど、これ大変な言葉なんです。平成28年にあの当時の国立社会保障人口問題研究所が出した2040年、あと17年後の伊予市の人口は2万6,998人になる。期間によって数字はちょっと前後するんだけど。ましてや、去年の愛媛新聞の9月の1面には、2060年には1万7,145になると。これを3万人が住み続けられるっていうのは、3 万人程度というのを確保するんですけど、1 万 7,000 人になったら何が起こるかというと、今の産業の半分以上消えちゃいます。職員の数も3分の2以上要りません。そういった自治体を構築していくのか、それともやっぱり3万人程度がある程度2040年、2045年住み続けられる自治体をつくっていくのかっていうのは、もうターニングポイント、分岐点はとっくに過ぎてるんで。今は、平成28年ぐらいから、職員一丸となってどうしたら3万人程度が住み続けられる伊予市が出来上がるのかということを真剣に考えてくれてます。その枠の中でたくさん種もまいてきたんで花も咲いてきました。近いうちに実もなることにもなるでしょうけど、もうご覧のとおり、常に言ってますけど、その魅力の発信をすることも大事だけど、高齢者の皆さん方が伊予市をついのすみかにしてよかったと思う施策とか、子どもたちが笑顔で学校に行ける環境、ましてや現役世代が生きがいを持って働きに行ける、そういった条件と魅力がリンクっていうか関連性を持たないと、3 万人なんていうのは夢の夢だと思ってます。

教育もまさにそのとおりで、子どもたちがやっぱりこの伊予市を好きになってもらわないと、伊予市からどんどん離れていって人口減少に歯止めが利かないということになりますんで。そういう意味をもちましても、この教育会議、大変重要な会議と存じておりますので、どうか忌憚（きたん）のないご意見を賜りながら、実りのある時間の時を刻んでいただきたいと思います。

〇窪田局長　委員さんのほうから自己紹介をお願いしたらと思います。よろしくお願いいたします。

〇武智市長　伊予市長の武智邦典です。どうぞよろしくお願いします。

〇上岡教育長　教育長の上岡です。よろしくお願いします。

〇上田委員　今年から教育委員をやらせてもらってます上田です。よろしくお願いします。

〇矢野委員　矢野と申します。土曜日は本当暴風雨ということで、霰（あられ）が降りまして、

雪が降りまして、私、永木に住んでるんですが、昨年度の 12 月を思い出しまして、このままだったらまた道路が通行止めになるんじゃないかな、いつ伊予市のほうからブルドーザーを回してくれるんかなと思いながら待ったことを思い出しました。3 万人が住み続けるまちというふうに市長さんがさっき言われたんですけれども、私が住んでいる永木のほうもだんだんもう人口減で。昨日も忘年会というのをやったんですけど、70 人で 40 人来ました。ほんとに高齢化しておりました。みんなで和気あいあいと、今年コロナ禍で初めてできて、何かほんと地元でよかったっていうふうな話はしたんですけれども、またその後の話が大事なんじゃなかろうかなというふうな気がしました。すいません、長々と。よろしくお願いします。

○長見委員　教育委員の長見です。よろしくお願いします。

○高橋委員　教育委員の高橋久美子と申します。よろしくお願いいたします。

○窪田局長　それでは、事務局のほうの自己紹介とさせていただきます。教育委員会事務局長の 2 年目になりますが、窪田と申し上げますが、よろしくお願いいたします。いろいろとまた予定外のことが入ってこようかと思いますけれども、何とか進行上務めていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○谷仲課長　学校教育課長をしております谷仲寿夫と申します。どうぞよろしくお願いします。学校教育課は初めてでございます。来てみて分かったんですけれども、やはり課題山積となっておりますので、一生懸命これからも学校教育行政が前向いていくように頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○小笠原課長　10 月 1 日より社会教育課長を拝命いたしました小笠原幸男と申します。着任してから 50 日余りたちましたけれども、まだまだ分からないことばかりで日々戸惑っておりますけれども、教育委員さん方のご指導をいただきながら、一日も早く戦力となれるように頑張ってまいりたいと思いますので、引き続きよろしくお願いいたします。

○堀内課長補佐　社会教育課課長補佐の堀内です。よろしくお願いいたします。

○伊予岡課長補佐　私も社会教育課課長補佐の伊予岡です。10 月 1 日からこちらのほうでお世話になることになりました。社会教育課、教育委員会は初めてですので、またこれからいろいろ勉強しながら頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

○相原指導主幹　指導主幹の相原と申します。教員目線でしっかりと考えていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○山口指導主事　指導主事の山口定伸です。よろしくお願いします。

○福岡課長補佐　学校教育課課長補佐福岡と申します。よろしくお願いいたします。

○武知課長補佐　伊予市学校給食センター所長をしております武知と申します。今年で 2 年目になります。どうぞよろしくお願いします。

○田中課長補佐　学校教育課課長補佐の田中と申します。よろしくお願いいたします。

○窪田局長　ただ今のメンバーで進めてまいりたいと思います。

それでは、協議事項に入らせていただきます。伊予市総合教育会議設置要綱第4条に市長が議長となるとありますので、以下の協議につきましては武智市長の進行でよろしくお願いいたします。

なお、伊予市総合教育会議傍聴要領に基づく傍聴人の申し込みはございませんでしたので、ご報告申し上げます。

○武智市長　それでは、早速でございますけれども、協議事項に入らせていただきます。

協議事項（1）伊予市学校施設等長寿命化事業の見直しについてでありますが、まず事務局から説明を申し上げます。

谷仲課長。

○谷仲課長　それでは、私のほうから、伊予市学校施設等長寿命化事業の見直しについてご説明させていただきます。

資料の1ページをお願いいたします。

1 番、今回の検討事項でございますが、現在推進しております伊予市学校施設等長寿命化計画について、近年の伊予市の人口減少、特に出生数が急速に減少している実態を踏まえ、市長部局とも連携しながら、将来的な学校の再配置や複合化も含めた計画として早急に見直しを行いたいというものでございます。

検討に至る経緯でございますが、本市では令和2年4月に伊予市学校等施設長寿命化計画を策定して以降、当該計画を基に学校施設の改良に取り組んできたところであります。しかしながら、昨年、愛媛県の人口問題総合戦略推進会議の発表で、人口減少スピードが大きく加速しているという情報もあったことから、今回、当初予算で改良のための設計業務を計上していた中山中学校について、今後15年程度の生徒数を予測したところ、想定を上回る減少状況にあることが分かったため、発注を一時保留としたところでございます。

では、どの程度減少しているかでございますが、資料の2の1、3ページの資料をご覧ください。

こちらは、2023年3月、令和4年度末現在での市民課が管理している伊予市人口調べから推計した、今後の各小・中学校の児童・生徒数の予測表となっております。左側が小学校、右が中学校となっております。一番左の欄が2022年度現在、右の欄が小学校は2029年、中学校は2035年で、大字ごとの児童・生徒数の予想となっております。

注目いただきたいのは、赤枠で囲っている部分。小学校では北山崎と郡中を除き2029年までに半分近くにまで減少し、中学校では2035年までででさらに大きな減少となっております。この状況は、長寿命化計画を策定した当時の予測をはるかに上回っております。

次のページ、資料2の2をご覧ください。

比較参考として、10年前、2013年当時の人口調べでも同じものを作成しております。ほとんどの学校で現在よりも減少予測が小さくなっております。

学校施設の長寿命化改修計画は、緩やかな人口減少が続く中、主として過疎対策事業や移住促進政策等によりこの減少予測をさらに緩やかにしていきながら、既存校舎を長寿命化により長く有効に使っていくことで、施設管理コストの縮減を図るものでございました。

しかしながら、現状の予測値でいくと、校舎を既存規模のまま40年寿命を延ばす長寿命化改良工事を進めていくと、郡中小学校や港南中学校を除き、当然ながら将来的に空き教室が多く発生する学校も出てきております。

資料6ページをご覧ください。

中山中学校ですと、鉄筋コンクリート造4階建て、普通教室が3教室、多目的室や理科室、音楽室を含め、3,000平方メートル近くの建物でございますが、この施設を2035年には7人で利用することとなっており、そのための改修工事となっておりました。

資料2ページへお戻りいただきたいのですが、緑枠部分、今回保留としました中山中学校の改良に必要な工事費は、概算ですが5億5,000万円、またその他の学校も大きな改良工事費を見込んでいることからも、施設管理のコスト縮減、適正化という観点から、中山中学校に限らず児童・生徒の減少予測が大きな学校については、これまでの長寿命化という手法から、ほかの方法も含めた検討を行う必要が生じたのではと考えた次第です。

では、ほかの方法について具体的な検討例としましては、大きく4つ。

1 つ目、将来的な空き教室について、児童クラブ、防災倉庫、集会施設等、事前に用途を協議、確定させた上、長寿命化工事を行う。こちらは、学校施設の公共施設複合用途化となっております。2 つ目、小中一貫校として建て替えを検討する。こちらは、学校自体の複合化となっております。3 つ目、耐用年数まで校舎を活用後、適正な規模での建て替えを行う。こちらは、学校規模の縮小、適正化になります。4つ目、学校の統廃合を検討する。こちらは、学校の再配置となっており、こういったものが考えられます。

ほかの公共施設との複合用途化につきましては、資料の8ページをご覧ください。

こちらは文部科学省の調査研究参考事例を添付しておりますが、事例としましては、香川県のまんのう町の学校と町立図書館、町民体育館との複合化であったり、京都市の中学校と保育所、高齢者施設、商業施設との複合化など、さまざまな複合の仕方がございます。

ただ、こういった公共施設の複合化につきましては、実際の実施に関して、セキュリティーや用途変更に係る部分的な改修など課題も多く、また当然ながら市長部局との連携が必要と考えております。

資料初めのページにお戻りください。

4 番、今後の方針ですが、いずれにしましても学校は児童・生徒の教育のために設置されている施設で、学校の統合や規模の検討に当たっては、児童・生徒の教育環境の改善の視点を中心に据えるべきですが、一方で住民から見た学校は地域社会の将来を担う人材を育てる中核的な場所であるとともに、防災、子育て、地域の交流の場など、さまざまな機能を有している場

合も多く、学校づくりはまちづくりも密接に関わっております。

そのため、検討に当たっては、学校教育の直接の受益者である児童・生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子どもの保護者の声を重視しつつ、地域住民や各支援組織とともに教育環境の課題やまちづくりも含めた将来ビジョンを共有し、十分な理解と協力を得ながら進めていくことが大切と考えております。

この点に留意した上で、伊予市公共施設等総合管理計画など関連計画とも連携を図りながら、市として学校の再配置、複合化計画の検討、策定に早急に取りかかりたいと考えておりますので、市長をはじめ市長部局のご協力をよろしくお願いいたします。

以上で説明を終わります。

○武智市長　ただ今説明があった内容につきまして、ご質問やご意見等がございましたらお願いをいたします。

高橋委員。

○高橋委員　人口調査が13年に調べたのと23年、今年調べたのとで大きく違うということで、大英断であると思います。必要なことであったと思うんですが。そもそも10年間のこのリサーチで、何でこんなに人口推移の想定が変わってしまったのかというところが分かるようなら教えていただけますか。

○武智市長　谷仲課長。

○谷仲課長　ただ今の高橋委員さんのご質問に、私のほうから回答をさせていただきます。

まず、高齢化そして少子化いうのは、もう日本全国どこの自治体でも起こっていることなんで、それの原因と言いますと、どうしても学者的な見地でないとものが言えないと思うんで、基本的にそういった踏み入ったところまで私のほうからは言えないんですけども。私どもの考え方としては、基本的には先ほどの説明にもあったんですが、やはり日本全体が年を取っているという考え方で、どうしても人口が減っていく中、何とか過疎対策とかであったり、インフラ整備とかで、その緩やかなカーブを抑えながらやっていこうという考えの中で、やはりここ数年で大きく変わったのが新型コロナ、そしてウクライナ情勢とか、そういった世界情勢の不安感とか、当然ながら物価高騰、どうしてもそういったものによる先行きの不安感から、そういったものから出生数さらに冷え込んだものとは考えております。これは私見にはなってしまうんですけども、そういったものが主な原因だとは考えております。

以上でございます。

○武智市長　基本的にここまで男女の価値観が変わってきて、子どもをつくらないカップルが増えてくるのを 10 年前に想定できとったかということで。今、伊予市が年間 500 人が鬼籍に入るというか天国に行って、180 人ほどがオギャーオギャーの声が聞こえる。ただ、高齢化というのは皆さん、みんな後から生まれてきた人には追い抜かれない、要は年取っていくのは当たり前のことなので、問題は少子なんです。特に伊予市が、私が常に言ってるのは、令和7年

団塊の世代がピークを迎えて、伊予市の人口比率は 75 歳以上が 5 人に 1 人という伊予市の人口形態になって、その枠の中で敬老会ではこれからの伊予市は 75 歳以上の人たちが元気引っ張っていくんですよと言ってるけど、私も含めてその人たちが鬼籍に入るエイジになった時に、年間 800 人ぐらいがぱっと行く。そして、オギャーオギャーが今は 180 人だけど、130～140 人になったら、もう一気にまずは減少するんだけど、それは人口減少ということで、子どもの数が減ってる話はよく分からないというか、単純に子どもを産まない家庭が増えてきた。多分、10 年前の想定っていうのは、そこまで子どもをつくらないとは想定してないから、ああいう数字になったんで、それがどんどん統計を取っていく中で係数を入れていくと、これだけの減り。だけど、それは一気に中山に移住者が入ってきて、若い子が入ってきて、子どもを産んでくれたらこの数字は間違いになるけど、平均的にはこういう考え方でいくっていうのが、なぜこんなに減ったんですか、10 年前と比べてという、一つの答えかなと思います。

○高橋委員　だとすると、それは伊予市だけの問題じゃなくて、日本全国もう予想している以上にみんな子どもを産まなかったってことですね。

○武智市長　そう。だから、8,000 万国家を目指す日本であればいいんだけど、今、1 億超えている国力があって、ここまで人口予測までいってしまうと、それは 8,000 万時代もあったわけです、過去の日本には。でも、心配してるのは、国力が弱るんで、人口減少っていうのは。少子化っていうのは多分、各地方の自治体がどうのこうの言うよりは、国がこの少子化にメスを入れて、子どもできてもちゃんと大学まで行かせる条件つくりますよとかやっていかないと、これは無理だと私は思います。

だったら、われわれはそんなこと言ってられないから、東京や大阪から人を引っ張ってこようと努力するわけで。さまざまな形で男女の価値観も変わってきて、子どもができない状態っていうのが今の日本。

だけど、地球規模はどんどん人口が膨らんできてる。だから、今、インドがもう中国抜いて人口すごいことになってるけど、多分、これからの時代はインドでしょう。これは、この会議とは関係ない。

だから、全国でも増えてるとこっていうのは、東京近郊とか、相当優遇している施策があるところ。要は、住みやすいっていうところには優遇施策もないと、きれいごとを言ったってお金が必要になってくるんで、そういったことじゃないのかなと思います。ただ、増えてるとこは、東京近郊はまだ増えてる。伊予市もまだ一応 3 万人キープしてるんで。ただ、残念ながら、どうしても中山が今 2,500 人、双海が 3,300 人、その枠の中で、中山の人も言いたくないけどこっちに出てくる。双海の人も出てくる。でも、ポテンシャルあるんだから、中山も。

それをどうするかっていうことで、私がとにかく、学校っていうのは地域がどうしても活性化する起因になるんで、少々減ったぐらいでは廃校しないよって言ってるんだけど。でも、子どもができなかったらもう学校そのものの存在がなくなってきて、統廃合とか、いろんなこと

はやらないとということで、長寿命化の想定したのがずれてきたんで、ご理解を賜りたいという今日の会議です。
○高橋委員　ありがとうございます。
○武智市長　2023 年に中山地域におる子どもが 35 人おるんが、2029 年には 14 人になるっていう推計なんやな、これで言うと。
○谷仲課長　はい。
○武智市長　要はここやな、ここなんよ。年取るんはみんな一緒やから。新しい命が生まれてこないことには、これどうしようもないいうところはあるけど、それでもそのために、じゃあ、こまねいているだけかっていうんじゃなしに、移住者も来てますよ、中山にも、ほんと。佐礼谷小学校の中にもその移住者の子どもが行ってくれてる。そういったことも考えながらやっていくんだけど、ただ自然的にどんなに頑張っても今の計算式ではここまでは下がってくるかもしれないと。であるならば、ちょっと長寿命化計画を学校だけの長寿命化でなしに、自主防災組織の倉庫であったり、いろんなものを巻き込んだ長寿命化計画を再度再構築して、次の予算に乗せたいですというような、今の事務局の説明です。
　せっかくの機会ですので、思いでもいいんです。矢野職務代理者、何かありましたらどうぞ。
○矢野委員　私もこの資料を頂いて、いいですか、正直言って、私たちに何をせえと言うのかと、まず思いました。なぜこういうふうに人数の見込みがずれたのか、高橋さんと同じような気持ちで最初これを読ませていただいたんですが。市長さんからもご説明いただきましたし、それに加えて中山地域のことを言ったら、やっぱり結婚をしない人すごく多い。これはまた別のことになるのかも分からないけど。
○武智市長　だから、さっき言うた男女の価値観ですよ。
○矢野委員　そうですね。ほんとに近所を見ても、それはもう今更するしないは本人の勝手だし、産む産まないもあれやからないんですけど。この予測していた頃は、結婚する適齢期がいるから、多分、子どもができてこういうふうになるんだろうというふうな予測もしていたんが、それがしないという。晩婚化だけじゃなくて、そのままもう結婚されないでっていう方もすごく多いし、引き込もっている人もいるようなんですね。そういうふうなんも影響してるんかなと思って見たんですが。
　私がいつも学校を見て考えている時に、統廃合っていうのが 1 つ頭に浮かんでくる。ある学校はもう統廃合ぎりぎりやって。どの学校も全部ですけど。もう一つは、小中一貫校で特別な教育を実施して子どもたちを呼び込むっていうふうなことも一つ。それから、もう一つは、さっき言われたように公共施設と一緒になってこの学校を少しでも長く存続するというふうな、この 3 つをずっと見ながら考えてたんですけど。統廃合になったら、これはもう地元の話、それから子どもたち、地域の保護者の話、これがまず優先してくると思うので、どうもこうも言えないんですが。こういうふうなんで計画を見直しして、そして中山中学を少しでも維持した

いっていうふうなんで進めてくださるんだったら、2 つ、小中一貫で何か考える、あるいは公共施設と一緒にして何か考えるというふうなことでいっていただけれるとありがたいなというふうな思いです。

○武智市長　それは今後の。今日は、今、既に先に提案しとった長寿命化が本来であれば明日から進むところが、3 年先になりますよ、5 年先になりますよ。それに対して、ご了解を得てじゃないと、われわれ議会にも提出しとるんで、その枠の中で、今後、統廃合っていうのはさっき触れたけど極力その学校が、例えば佐礼谷小学校が 11 人なら教頭先生が配置されないとか初めてこの間知ったけど、それが 7 人になったら統廃合してしまうのかっていうか、中山中学校と中山小学校を統合してやっていくのかっていうのは、今後の検討課題だ。今日の提案事項はあくまでも長寿命化計画をちょっと先延ばししますよと。それは、こうこう、こういった理由もございますよ。しかしながら、今後の検討でさまざまな教育委員さんのご意見も聞きながら、じゃあ、中山の場合はこういう形がいいのかなと。これは、ここで決まっても、まだ議会というところがあるからあれですけど、そういった部分は次のステップになると思います。

　できたら、私は確かに野中、永木は廃校になっちゃったけど、できたらやっぱり学校っていうのが地域の笑顔の拠点でもあるし、そこらの子どもたちありき。だから、今までは子どもたちありきの長寿命化だったんだけど、さっき谷仲課長が言ったように、今後はやはりそこまで子どもの数が減るんであれば、地域も巻き込んだある意味パブリック的な建物として使っていく必要性もあるんじゃないのっていう話なんで。それは次のステップになると思いますんで。そういうことをご理解いただきながら、教育支援が、長寿命化は先延ばしするのはしょうがないよねって言えば、この話題はそれでまず進んでいきます。

　ご意見があったら、参考にちゃんとやっていきますんで、今後、教育委員会、臨時教育会議も開いていいと思いますんで。

○高橋委員　すいません。またちょっと質問していいですか。

○武智市長　はい。

○高橋委員　これ、今のところ議題として具体的に挙がっているのは中山中学校を少し見直しして先延ばしするのか、内容変えるのかっていうところで、ほかの小中学校は特には今のところはないんですか。

○武智市長　谷仲課長。

○谷仲課長　ただ今のご質問に、私のほうからお答えをさせていただきます。

　今、おっしゃったとおり、今回当初予算を組んで設計をして挙げていたのが中山中学校と、あと郡中小学校、こちらも予定としていたんですけども。当然ながら、郡中小学校のほうは 10 年前と比べると予測減少幅はやはり大きくはなっているんですけども、逆に今現在県下でも一番のマンモス校になってて、空き教室がまだ足りないぐらいになっておりますんで、郡中小学校についてはそのまま長寿命化の改良工事をしても差し支えがないという判断でございますの

で。一斉に全部止めるとかいうんではないんですけれども、先ほど言ったように、減少幅が大きな学校について、特に中山と双海が大きく減ってきてますんで、その辺りは一回立ち止まってみようという考え方にはなっております。そういった仕分け、全部を止めるというつもりではございません。

○高橋委員　必要に応じて見直しはしていくのは、本当に必要なことだと思うので全然反対するとか、そういう立場ではないのですが。当然、それは見直してって一番いい形にしていただかないといけないとは思っておりますが。例えば、これを見ますと、中山小学校とかもう既に施工中で始まってますね。

○谷仲課長　はい。

○高橋委員　次に来るのが中山中学校だけれども、工期的には郡中小学校ですけど、今のお話のように中山はちょっと見直そうと。ほかのところは一応予定どおりに始めましょうよということですが、一方でさっき統廃合も考えるとかっていうことになってくると、地域的に、じゃあ、小中一貫にして中山小と中山中１校にするのか、地域をまたいで双海と一緒にするとかって言ったときに、それぞればらばらにこの工期でやっていくと、その考えはどう成り立たせていくのか。ちょっとその辺がよく分からないんですが。

○谷仲課長　基本的に今現在はこれからどうしていくかいうのは、先ほど言った郡中小学校の改修が直近であるんですけれども、正直なところ、郡中小学校以外のところはいったん足止めという形。当然ながら、港南中学校があるんですけども、港南中学校はまだ校舎が新しいこともあって、港南中学校はこちらの表にも載ってないんで、それは別なんですけども、郡中小学校以外はいったん足止めという形の中で、今後どうしていくかというのはまずゼロベースで考えております。

　先ほど高橋委員さんが言われたように、今後、統廃合とか考えた場合も、例えば中山、双海の中学校がどこと統合するのか。例えば、統合先が港南中学校ではなく、中山中学校と双海中学校が統合するとかいう考え方も当然ゼロじゃあございませんので、それを考えると、今度は双海中学校の改修の在り方いうのがまた変わってきますんで、その辺りは影響がありそうなところについては、いったん一緒に立ち止まるべきいうところは考えてございます。

○高橋委員　ありがとうございます。

○武智市長　矢野委員。

○矢野委員　私が聞き漏らしたかも分からないんですが、中山小学校、今、施工中ですね。

○谷仲課長　はい。

○矢野委員　その次の予定は実施されるんですか、このとおりで。1.9 億、2.0 億。

○谷仲課長　現在校舎が中山小学校 2 棟あるんですけれども、今、改良工事をしているこの 1 棟の次、2025 年、2026 年に予定をしているところと、あと、最終、屋内運動場まで 2027 年、2028 年まで予定をしているんですけども、この 2 つについてはいったん保留と考えておりま

す。
○矢野委員　これはいったん保留になるんですか。
○谷仲課長　はい。
○矢野委員　そうですね、10 人になりますから。これは保留、これだけですね。
○武智市長　ある程度もう少しにらみを利かさんと、その中山小学校と中山中学校を統合して小中一貫校的なものにするとかいうのも、体育館の仕様も変わってくるし。だから、今はそういう位置付けを持ってたら、これが決定でも何でもないんだけど、そういう形を。ただ、今日の議題としては 2024 年、要するに来年に予定をしておった中山の中学校の校舎の長寿命化をちょっとずらしていこうと。で、ほかのエリアともしながら。
　ただ、私が言いたいのは、だからって即座に佐礼谷が廃校になるのかって、そうじゃないんで。ただ、しっかり見つめていったことでいろんないい意見が出てきて、これからまたクラブ活動の在り方も変わってくるじゃないですか。だから、そういった部分も今度新たな会社がそういったことも加味しながら、しおさいの体育館なんかも指定管理者になったんで。今後、いろんなことが、いろんな問題点とか、いろんな課題だけでなく光明も見えてくると思うんです。そこらを鑑みながら、そういったご理解を賜りたいっていうのが谷仲課長の説明の趣旨じゃなかろうかなと思います。
○矢野委員　はい。趣旨はよく分かりました。
○谷仲課長　例えば、資料の 5 ページを見ていただければ。今、中山が抱えている課題でございますけれども、まさしくこれ中山中学校の配置図なんですけれども、中山中学校、今回改修をいったん保留とした中で、緑で枠を囲っているところは体育館でございますけれども、こちらは 2015 年に建て替えをして新しい体育館となっております。また、北側のほうにプール、これは小学校との共用のプールになってございますので、中山中学校、じゃあ、これから長寿命化をいったん止めたらという中で、新しい体育館と小学校と一緒に使っているプール、そしてもう既に長寿命化工事着手している小学校の校舎、そしてこの減り続ける児童・生徒という、いろんな問題が複合して持っておりますので、こういったものを全部いったんそれぞれを関連させながらひもといて進めたいと思っております。ちょっと課題としては大きな問題もございますけれども、市長部局の皆さんの力を借りながら、これを進めていけたらなと思っております。
○武智市長　教育委員さん、もしかしたらもうご案内かもしれませんが、この小学校共用のプールの左上辺りに教員住宅があった 1 棟を、お試し住宅で完璧にリニューアルしたんです。ここに新たな中山を見てくれる、極端に言うたら、われわれでも借りれるんです、お金出したら。そこで住んでもらって、海より山のほうが好きよと言う人もいるんですね。山よりも海のほうがいいっていう言う人もいるし。その枠の中でもいろんなお試し住宅を、ここで生活をしながら中山町で。

だから、今、元の遊栗館がこよみスペースになって、砂川君が頑張ってくれとるけど、意外と松山の子どもたちが集まってくるん、土日に。それは、やっぱりそのこよみスペースのエリアだけじゃなしに、中山全体が持ってる雰囲気を求めに子どもたちが松山からやってくるんで、そういったことも加味しながら。ただ、伊予市は、もう子どもがおらんのやけん言うて手をこまねいてだけじゃないんで、いろんなことをやってますんで。

双海においてもどっかに完璧なエコハウス、要するに水道管も電気の線も要らないエコハウスを造って、そこにお試し住宅をやってみようかというような、今はまだ議場にも上がってないことですけれども。そういったこともやりながら、伊予市の魅力、双海の魅力、中山の魅力を発信していく。ただ、旧の伊予市だって人ごとじゃないのがもうすぐそこに来てるんで、いろんなことを考えていかないといけないよねっていうのが今の状態ですんで。

今回、取りあえず中山中学校のこれをちょっと先延ばしするよってのは、そういう趣旨があるということだけたちまちはご理解いただいて、今後またいろんなこういう協議会で委員さんのご意見も賜りながら、いい案をまた議会のほうにも提案していきたいなと思ってますので、よろしくお願いします。

続きまして、協議事項の（2）ですけれども、給食センターの調理配送業務の一括委託につきまして、これも事務局から説明を申し上げます。

谷仲課長。

○谷仲課長　それでは、学校給食調理業務と配送業務の一括委託についてご説明させていただきます。

資料の1ページをご覧ください。

1 番。現在、伊予市学校給食センターは、旧伊予市の各学校の給食室と旧中山町および旧双海町の給食センターが統合され、平成 28 年 9 月から市内全ての小・中学校の学校給食である約3,100食を提供しております。また、現在は調理業務が直営、配送業務は民間委託という形態で運営しております。調理業務の民間委託については、実は従来から継続課題として取り組んできた経緯がございます。

今回、民間委託という決断に至った経緯でございますが、まず資料1ページの2の（1）に、調理員の人員推移をご覧ください。右端、今年度の給食調理員は合計で25人が雇用されておりますところ、左端の平成28年度の31人から徐々に減ってきていることが分かります。

さらに次ページの年齢別人員を見ていただくと分かるとおり、今年度末で2割が60歳以上、50歳だと約7割となり、職員の人員減とともに高齢化が顕著でございます。この状態でいきますと 2 年後の令和 7 年度末には約 3 割が 60 歳以上となり、個人差はありますが、体力的に調理員として働くのが厳しくなる年齢になります。

このままでは調理業務の運営が困難になることが予想される中、毎年の募集に対し新規雇用の応募者がほとんどいない状況が続いていたため、いよいよ民間活力の導入を決断する時期と

判断いたしました。

(2) をご覧ください。近年では、県内でも調理業務の民間委託を実施する自治体が増加しており、その中でも松山市をはじめとする一部の自治体においては、人員の効率的な運営を可能とする調理業務と配送業務の一括委託を実施しています。

調理業務の民間委託を決断した後、次に委託方法の研究、検討を行った結果、本市においても委託の方法として調理業務および配送業務を合わせた一括での委託とする方針といたしました。

では、調理と配送とを一括とすることで、何がどのように変わるかをご説明させていただきます。

資料2ページの3の（1）をご覧ください。

給食に関わる業務として、主に献立の作成、食材調達、調理、食缶等の配送・回収、食缶等の洗浄、施設清掃があります。現在、民間事業者と契約しております学校給食と配送業務の委託期間が満了する令和7年7月までは、Dの配送業務のみ民間委託となっております。一方、一括委託により配送業務の委託期間が満了する令和7年8月からはC、D、Eの調理業務、配送業務、洗浄、清掃を一括で民間委託する形になります。

ご覧のように一括での委託となった場合でも、献立作成や食材調達は今までどおり市が実施します。そのため、食材の質が低下することはありません。また、調理と配送についても、これらの業務は市が定める伊予市学校給食衛生管理マニュアル、伊予市学校給食配送マニュアルなど、各種マニュアルに基づいて実施させることを受注要件とします。万一トラブルが発生した場合は、市から対応を指示する想定としております。

3ページをお願いいたします。

一括発注のメリットとしては、人員配置について合理的な運営の委託が実施できることが考えられます。想定される事例としては、調理と配送を一括委託することにより、配送業務の待機人員を調理業務や回収後の清掃に充てたりすることで、人員の効率的な運用を図り、また病気等による急な人員不足が発生した際には近隣の同種事業の受託箇所から臨時的に人を手配するなどの対応をすることで、人員不足時の課題を解消できる可能性があります。

その他、民間企業が持つ衛生管理面などの情報やネットワークにより、より質の高い研修を調理員等に実施することで、より安全でおいしい給食を提供することが期待できると思われます。

今後の計画についてご説明させていただきます。こちらにつきましては予定でございますので、学校等関係機関との調整により変更する可能性がありますことをご了承ください。

今年度は、この後、12月下旬に調理員へ、来年1月に市内校長会へ、2月下旬に伊予市学校給食センター運営委員会へ説明を行い、令和6年度に入って4月から6月のうちに保護者説明および周知を、翌7年3月までにプロポーザルにより委託業者の選定と議会報告を行い、7年

9月からは一括委託での給食開始ができるよう進めていきたいと考えております。

以上で説明を終了いたします。

○武智市長　今の説明に対して、何かご質問、ご意見ございますか。これ1点だけ、2ページの3の（2）のA、B、C、D、Eの工程で、ABも含めて民間委託しとるところは全国でどれくらいか、どんなんかな。例えば、愛媛県の給食センターでもう既に公設公営はやめて、ある意味民営化になってるところもあろうけれども、いいものを提供するっていう位置付けで伊予市が触ってるんです、AとBに関してはってのは分かるんだけど。例えば、ほとんどがこういうやり方なのか。いや、もう全部民間に任せてるんですってのがあるのか。その点が分かってたら教えてほしい。

谷仲課長。

○谷仲課長　基本的に、まず学校給食法において保護者の負担となるべき部分というのが食材費を保護者に負担という考え方になっておりますので、それ以外の経費については学校の設置者ということになっております。そういったこともあって、献立と食材の調達については行政が引き続きやっていこうという考え方がございます。

例えば、この間倒産したホーユーという民間の事業者があるんですが、確実ではございませんけれど、あそこは学食とかそういった食材調達から請け負う業者でございましたんで、物価の高騰についていけなかったいうのが情報としてあります。やはりそういった一括で食材の調達、献立の作成からお任せすると、そういった危険性が増すというところもあるんで、基本的には先ほど市長が問われた全国的に献立の作成、食材の調達までというところを任せているところは、すいません、把握はしてございませんけれども、今後とも献立の作成と食材の調達については引き続き市としてやっていきたいと考えております。

○窪田局長　武知補佐、A、B委託しているところはあるのか、ないのか。学校給食法上難しいのか。

○武智市長　武知課長補佐。

○武知課長補佐　愛媛県下におきましては、Aの献立作成、Bの食材調達については、自治体のほうが行っております。民間委託しているのは調理と配送の関係だけになっております。そもそも献立作成自体は、栄養教諭といって県の職員のほうが各市に派遣されて献立作成をするように愛媛県下はなってますので、愛媛県下は献立作成自体を委託するということはないと考えられます。

○武智市長　この間に何か気付いたことがあれば、どなたからでも意見を。とにかく、佐々木君が局長であった時代に、調理員の確保ができないと、それでもって公設公営でいくのかと。調理員確保できんかったら子どもに給食配達できんだろというところから、その配送業務がこうこうこうで、この調理がどうのこうのって、何とかぎりぎりまで踏ん張っては来たんだけど、限界点に達した、到達して、これからはやっぱり民間にある程度委ねないと調理員の確保がで

きないよねっていう部分もあるけれども。やっぱり未来を担う子どもたちのために、愛媛県はもうA、Bあたりまでの話であれば、これはちゃんとそこの部分は行政が見るけれども、あとの配達業務と調理はもう一括して、今後、プロポーザルなり何なりしていく、業者さんがやってもらうというような形になると思います。予算のほうから言っても。

予算措置も取っていかないといけないんで、ある程度ここの部分においては教育委員さんのご理解を、今後まだ教育会議開いて侃々諤々（かんかんがくがく）するんですよというような状態じゃないんで。ここのとこは、もし今の段階で何か質問があればちゃんとしとってもらったらと思いますし、これはこれでそうするしかないよねっていうなら、もうそれでいいんですけど。一番の大前提は、とにかく安心・安全な給食っていうのを子どもたちに届けるっていうことが一番大事なんで。

ただ、もう一点、蛇足かもしれませんけど、過去にも言ってるけど、私が市長をしてる間は給食費を上げる気はないと言ってますんで。それはなぜかというと、平成25、26年に、ある意味給食費を無償化する案も出たんです。1年半、2年間ちょっともんでみたら、やっぱり年間で1億5,000万～1億6,000万、7,000万かかると。これをずっと未来永劫（えいごう）続けていくことは伊予市にとっては無理だということで、やった矢先に食材が上がったので、給食費を上げたいと思うんですって、ちょっと待てやという話になって。給食費は上げません、それだけは。ただ、極端に言うたら、キュウリ1本が1万円もし出したらそういう話にならないかもしれないけど、その時は食材が変わるだけのことで、その給食費に見合った栄養が豊かなものを提供していくだけのことしかならんと思う。

○矢野委員　すいません。

○武智市長　どうぞ、矢野委員。

○矢野委員　ちょっとお尋ねなんですが。私よく分からないので。栄養教諭が関わるのは、A、Bで、Cになったらもう一切関わらないんですか。それとも、何かは関わるんですか。

○武知課長補佐　C のほうの調理ですが、栄養教諭は実際に調理現場の中に入るようになります。これはなぜかと言いますと、献立を立てたものが正しく作られているかを確認するという意味で中に入ります。やはり栄養価を計算したりだとか、栄養バランス考えた上で、こういうものを作ろうということで献立立案をして、それが結局献立委員会の中の校長先生とか給食主任さん、PTA 会長さんに来てもらって献立決定するんですが。それが実際正しく調理されて、本来の形で出せるかっていうことの指導などをするという関係で、栄養教諭は中に入ります。また、栄養教諭につきましては、衛生面とかの関係も非常に詳しくて、その辺りの衛生指導的な意味もありまして、現場の中に入って調理の監視等を行っていく形になっております。

○矢野委員　はい、分かりました。ちょっとそこがどうなっているのかな、ちょっと心配だったので。ありがとうございました。

○武知課長補佐　民間委託した場合、調理現場の中に入るかどうかについては仕様書のほうに

定めないといけないと思われます。それができるかどうかというよりも、本来は入ることが望ましい。基本的には指示書といって、これをこうしてくださいということでの委託でございますから、書き物にして渡して、そのとおりきっちり作ってもらうというやり方になります。

もし現場のほうに栄養教諭が入らないといけないということをプロポーザルの選考委員というか委員さんのほうが考えた中で、そういう仕様を入れないといけないとなった場合は、そういう仕様にして中に入るというような形になるんだと思います。また、この場では審査委員会は開かれてないので仕様の確定に至ってませんので、そこはまだ正確には確定しない状態になっております。

○高橋委員　よその自治体で先行してこの形を取ってるところは、どういうふうにしてるところが多いんですか。

○武知課長補佐　具体的には、栄養教諭がその中に入ってまでのことは確認はしてないんですが、中に入ってまで指導するかどうか分からないんですが、何かの形でそれを監視するとか、ちゃんと献立のものができるかをチェックするいうことはしているかと思われます。

○武智市長　それでは、こういう形で以後進めさせていただいてよろしいでしょうか。

（異議なし）

○武智市長　万全の体制で、ネズミ１匹入っただけでも給食止まってしまうんで。ただ、オープンにするなっていうわけには、クローズではできないから、どっかからそういうことも過去にはあるんですけど、万全の体制で。そして、調理の場合も過去にもちょっとした事故もあったんで、そういったことも含めましてちゃんとやってはいきますけど。今日は取りあえず今後どこが取るか分かりませんけれども、地元業者なのか、県外業者なのか、今後プロポーザルしていってやっていく。それは稼働し出すのは令和７年６月だから、ざっくり２年後ということにはなりますけれども、そういったことで進めさせていただきます。さまざまなご意見も賜ったみたいですけれども、参考にしっかりとしていきます。

本日の議題はこれで終わりますけれども、これで閉じますって書いてますけど、せっかくですんで、あと５分、10 分、この際しゃべっとこうかっていうことがあれば、この議案にかかわらず、なかなか皆さんお忙しいから一堂に会することが少ないんで、あればですけども。

はい、矢野委員。

○矢野委員　すいません、短く。給食のことが出ましたので、もうこれで気持ちだけお話しさせていただけたらと思うんですが。給食費の集金について、伊予市の場合は公営で集金してないと思うんですが、市のほう、学校のほうで担当していると思います。それをぜひもう市役所のほうでしていただくと、学校側にとっても大変仕事が減るし、働き方改革の一つにもなるんじゃないかなと思いますので、今後ぜひご検討していただけたらありがたいと思います。

以上です。

○武智市長　誰が答える、はい、谷仲課長。

○谷仲課長　矢野委員さんの思いにちょっと回答させていただくんですが。教育委員会として、給食費の公金化いうところだと思うですけれども。給食費に限らず、学校の先生方が扱っているお金、校納金であったり、例えば保険をかけとって、けがをして子どもさんに保険がおりて払うお金とか、そういったいろいろなお金があって、そのお金についての公金化いうことで、市のほうでという依頼を毎年校長先生からも頂いております。私どものほうも給食費の公金化、確か愛媛新聞の記事で3割ぐらいしかまだ進んでないよとかいう記事も見たことがあるんですけれども、もうそろそろ考えていかないといけない時期いうのは重々分かっているんですけども。例えばこれを教育委員会のほうで受けますと言った時に、何件ぐらいあるんだろうというのを1回確認をしたことがあるんですけども。例えば保険の支払い事務だけでも年間1,600件ぐらいの支払いがあるということなんで、そういうのは各学校にお願いしているのを教育委員会で一手にということになると、当然ながら、それに対応するシステムを入れたり、事務に当たる人員の配置をしたりいう形もありますんで、今後徐々に進めていこうとは思っているんですけども、そういったものを含めてまた市長部局と相談をしながら進めていこうとは、今、考えております。すいません。たちまち来年やりますというお答えにはならないんですけれども。

○窪田局長　今、申しました給食費の公会計化に関しましては、担当武知のほうも課題認識として持っておるところです。これまでもアンケート調査等がありよるんですけども、そのたびにどういうふうに回答をしていこうかというようなことで相談を受けておるところです。今、谷仲課長のほうも申し上げましたとおり、公会計化、学校のほう側からいうと働き方改革というふうなことで、先生方のほうの手間、滞納された時の対応だとか。

○矢野委員　そう。それが一番。滞納の時が一番困るんです。先生が責任感じる方なんか、今はもうおかしいと思うんです。

○窪田事務局長　そういうことに非常に労力が取られておったりとかするようなことを軽減できるというものは確かなんですが。一方、学校教育課のほうでそういったことを受けますと、今度、この教育委員会の中の学校教育課の職員のほうで、そういったふうな面倒を見ないといけない職員が必要になってくるというふうなことがございます。ですから、公会計化するだけでみんながよくなりますよと、どこも楽になりますよというわけではなくって、学校事務として学校教育課のほうが対応しないといけない事務も増えてくるというようなところで。そういったところで市長さんのほうもご認識をしとっていただいたらと思います。

○武智市長　武知君、補足ないか。

○武知課長補佐　確かに運営委員会のほうでも、港南中学校の事務長のほうからも公会計化を進められないかという意見も出てます。やっぱり学校の教職員の働き方改革、教職員の負担が大きいということで、国からそういうことを推進するようにということで毎年調査とかも来てます。流れ的には松山市とか南予のほうとかはもう既に公会計化に踏み切っております。で、宇和島のほうなども来年ぐらいには踏み切るという話も聞いております。伊予市だけは公会計

をずっとしないといけないわけには、いけないわけで、いずれはその時が来るんじゃないかなということで、今、給食センターとしても他市のリサーチ、どういうふうに、特に宇和島が今、進めてるみたいなので、その辺りの話をちょっと聞きに行くとか、そういったことで考えていこうとは考えております。

また、それに伴っては、当然、システムを入れるとか、お金とかの関係があります。その予算措置なども財政担当のほうとも協議しないと給食センターだけで考えるわけにもいけないので、その辺りとか、あと給食に限らずそれ以外の校納金関係、そういったものなんかも足並みをそろえてできればいいんじゃないかと、個人的には考えております。

以上です。

○武智市長　さっき言った滞納者も、教員が1回行っても2回行ってもおらへんし、会えても金がない言われたら何回も何回も行かんといかんような、ここはちょっとメスを入れていかんといかんと思うし。一般にはいろんな集金のあれがあるんで、それは学校側はやるべきだという意見もあるかもしれないけれども、当たり前に公会計化してすんなり来るんなら問題ないけど、さっきわれわれも心配してるのは、じゃあ、教育委員会も2人、3人補充しないと無理だよねとかいうふうになってくると。これは、また鋭意検討してまいりますんで。

○矢野委員　ぜひお願いします。

○武智市長　はい。

○矢野委員　ありがとうございました。以上です。

○武智市長　上田さんも、長見さんも、今日は特にはございませんか。

○上田委員　はい。

○長見委員　はい。

○武智市長　じゃあ、また子どもたちの笑顔を守るために、どうぞ教育委員の皆さま方、よろしくお願いします。

○窪田局長　閉会

午後4時50分　閉会